

北陸観測所30年間の地震観測(3)

Microearthquake observation for 30 years by the Hokuriku Observatory(3)

○竹内文朗*澁谷拓郎*西上欽也*岡本拓夫*平野憲雄*松村一男

○Fumiaki TAKEUCHI, Takuo SHIBUTANI, Kin'ya NISHIGAMI,
Takuo OKAMOTO, Norio HIRANO, Kazuo MATSUMURA

We calculated b-values in the region where many small earthquakes occur in Hokuriku, from 1976 to 2008. A method for counting the correlation between one region and a little one is bigger than 0.8, we found 3 regions. We will show the timely dependence of b-value of these region, with some other additio

1. はじめに

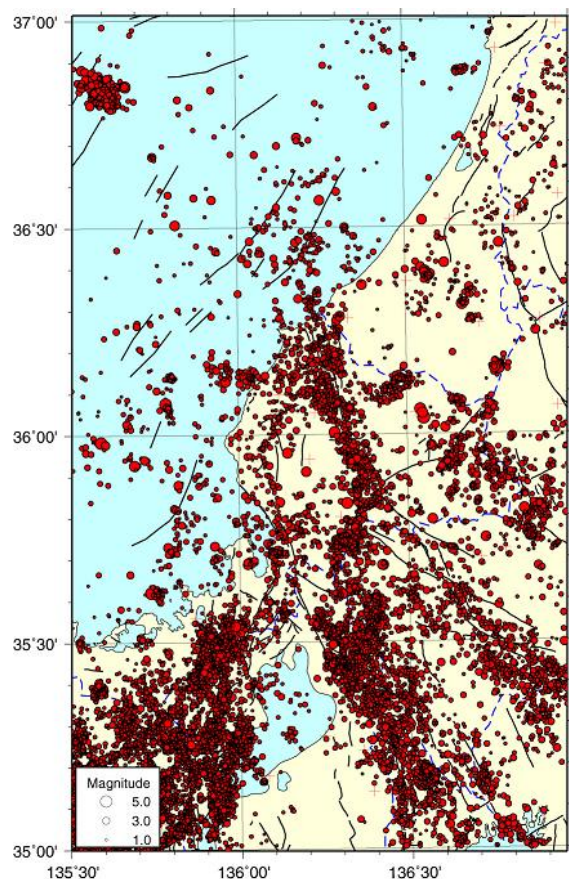


Fig.1 対象位置 (北緯 35° - 36.5° と、北部域 北緯 35.6 度以北) M1.0 以上の未示す。1976-2008。

北陸地域では、北陸観測所が 1974 年から記録を開始した。その後の変遷で現在は全データが宇治に集まり、他観測所のデータや気象庁データ等を含み気象庁一元化データとして集められる時代となった。我々は、このような時代変化を意識しつつも、b 値の時間的変化を調べ、地域の特徴を見る事を進めている。

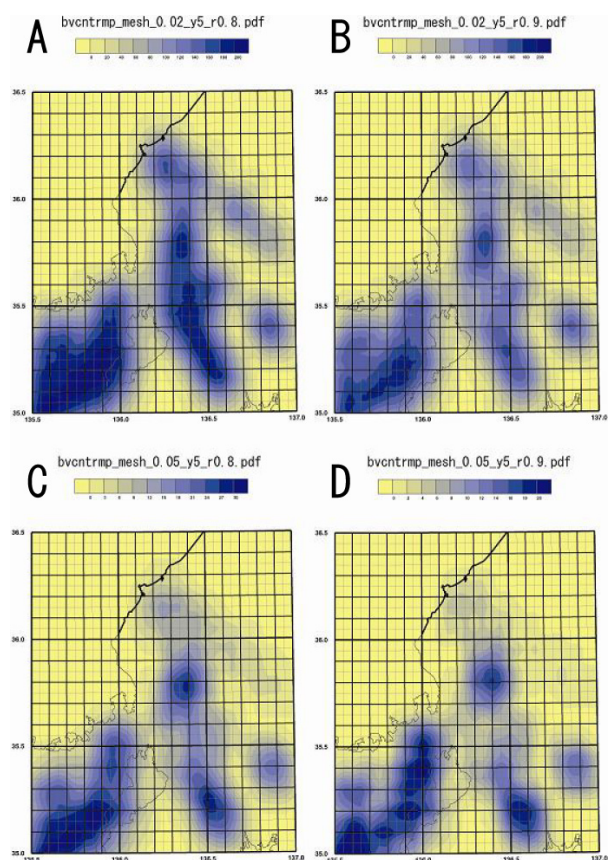


Fig.2 隣の領域との相関係数が高い範囲 (青)

A, B は 0.2 度の長方形内とその 0.02 度横の域との相関が高いもの。C, D は 0.05 度横の域を対象としたもの。A, C は相関係数が 0.8 以上、C, D は 0.9 以上。

今回は昨年度と同様の決定法を用いて、代表的な地震頻発域の b-値を計算し、図に示した。特徴としては、中央部上部の特徴的な福井地震断層が濃尾断層につながるよりも、むしろ南下し柳ヶ瀬断層につながる様に見える事等が挙げられる。